

全国 検数労連

696号
〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日
港福会館 5階
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
メール roren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国 検数労働組合連合
書記局



3.11東日本大震災発生から11年目の真実。 震災と原発事故から復興はどこまで進んでいるのか？ かつての帰宅困難区域と福島第一原発半径20キロ圏内を視察。



《震災遺構となった浪江町の請戸小学校》

2日目の福島第一原発20km圏内への視察では、NPO法人野馬土の渡辺さん協力のもと相馬市内から浪江町・双葉町・大熊町・富岡町へと進み、震災と原発事故からの復興状況を見てきました。

現在、福島県では官民一体となった『福島イノベーション・コースト構想』を掲げ、東日本大震災及び福島第一原発事故による災害によって失われた太平洋沿岸地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト（ロボット・エネルギー・廃炉・農林水産）をすすめることから、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでおり、住民感情としても大半が『被災地』という負の感情から『復興』というあらたな目標に向けて着実に歩みを進めているように見受けられました。

現地視察で分かった！震災からの復興の進捗状況と山積している課題。

今春に避難指示解除が出る大熊町の国道の脇道を計測。9マイクロシーベルト以上の数値が計測された。



しかし、こうした状況の傍らで、福島第一原発事故で発生した高濃度の放射線を含む廃棄物（原発ゴミ）の最終的な処分の問題や、トリチウム汚染水を海に放出する『海洋投棄』などの問題が残されているのも事実です。特にトリチウム汚染水を海に流すことによる汚染の影響は未知数であり、そうした不安を残したまま海洋投棄を行えば『風評被害』が悪化する事は容易に想像できます。このことは原発事故で住民を避難の底に落とした者が、2日目の『加害』をすると言っても過言ではありません。また、現在も浪江町や双葉町では帰宅困難区域があることや、今回の視察では福島第一原発が立地する大熊町（2022年春に町の一部で帰宅困難指示が解除）の国道沿いの脇道で我々が放射線量測定を行



ったところ、9マイクロシーベルトを突破し、計測不能になるほどの状況になりました。

この事実を受け、国の避難指示解除の目安である30マイクロシーベルトをはるかに超えている数値であることから、除染が進められているのは避難解除区域でも主だった目に入る範囲だけではないのだろうかとの疑問が残りました。

今回の視察を通して、参加メンバーは一人でも多くの人たちに震災後の正しい状況を知らせていくことが重要であるとの共通認識に至っています。同時に年々福島第一原発事故の関心が薄れて風化していくことに対して、警鐘を鳴らしていくことが重要であると考えます。

4月14日に開催される中央港湾団交の結果次第では、4月17日（日）の24時間ストライキが決定されるため、各地域闘争委、委員会および組合員は中央港湾団交に注目せよ！

その後、業側からの連絡により次回交渉を4月14日（木）15時から開催することとなりました。

これに対し全国港湾は、『業側回答については一定理解するが、これからの行動であり、員上げに反映させるには時間がかかること』と、要求項目すべてにおいて回答を求めていることから、今交渉での業側回答には納得できないとして、4月17日（日）の始業時から24時間のストライキを実施する旨を通告し、交渉を終えました。

業側は、組合要求趣旨を理解して政府が進める『価格交渉促進月間』のパッケージ政策に沿って船社団体に対して員上げ確保が出来るよう、日港協として料金値上げを囮る申し入れ書を文書で行ったこの回答をしました。

4月8日（金）芝浦サードセンター会議室で第4回中央港湾団交が開催され、全国港湾は業側団体に対し修正回答の提示を求め交渉を行いました。

第4回中央港湾団交 業側回答に不満を表明。4月17日（日）24Hストを通告。